

令和3年度「山形学」講座第3回 実施報告書(HP版)

- ◆開催日時：9月11日(土) 13:30～16:00
- ◆会場：遊学館3階第1研修室、第2研修室
- ◆テーマ：「環境異変に立ち向かう知恵～海・川～」
- ◆内容：講師：川島秀一氏(東北大学災害科学国際研究所シニア研究員)
講師：桑子敏雄氏(東京女子大学現代教養学部国際社会学科コミュニティ構想専攻教授)
※お二人ともにオンライン講話
コーディネーター：菊地和博氏(「山形学」企画委員)

◆プログラム

13:30	開講、コーディネーター趣旨、進行、講師紹介
13:35	講話1 川島秀一氏
14:25	休憩(10分間)・質問票回収(会場・オンライン)
14:35	講話2 桑子敏雄氏
15:25	休憩(10分間)・質問票回収(会場・オンライン)
15:35	質疑応答
15:55	菊地コーディネーターまとめ
16:00	終了

- ◆参加者数：会場27名、オンライン18名

- ◆主催：公益財団法人山形県生涯学習文化財団 後援：山形県教育委員会

◆当日の様子

川島氏は、「海の民と自然災害」というタイトルで、漁師と行動を共にしながら生の声を聞き取ることで、海に生きる人々の価値観や自然に対する認識等を豊富なエピソードとともに語ってくれました。漁師たちは自身の経験や周囲の方の話はもとより、昔からの口承、伝承を大切にしている、台風などの自然災害前後の海中の変化などにも詳しく、先人の漁師たちの知恵に学びながら海で生きていることを知りました。

桑子氏は、「風土の中の神々」というタイトルで、日本の国土の整備を日本の神話『古事記』から読み解きシンクロさせて語ってくれました。出雲の神々と国土管理という斬新な発想での民俗学的なアプローチに受講生は惹き付けられたようでした。また、コンセンサス・コーディネーターとしての顔も持つ桑子氏は、研究とビジネスの統合という新分野のパイオニアとして、自らが携わった行政と住民との橋渡し事業を紹介してくれました。地域の環境を守るためには、地域の文化的伝承、地域住民の経験、専門家の科学的知見の3つの柱(視点)を踏まえて、行政と住民が合意形成をすすめるプロセスが重要だと学んだ大変有意義な講座となりました。

参加者の声

- ・川島先生が漁師の方の生の声を研究に活かされているところ、素晴らしいと思いました。
- ・桑子先生の日本古来の神話の中の神々が現代社会の種々の問題(地球温暖化、自然災害など)に通じているというお話に、大変興味を持ちました。
- ・漁師さんたちが自然を認識し、抗うだけでなく受け止めて次に生かしているという川島先生のお話、神話が国土管理、幸福の実現を目指す国を治める者のあるべき姿を示していたという桑子先生のお話は、知らなかった新しい視点を示してくれました。
- ・漁師のみなさんの自然のとらえ方に対する民俗学的なアプローチのお話が興味深かったです。
- ・資料が大変分かりやすい。豊富な写真そして最後のまとめ(結論)という構成がよいと思いました。災害をとらえる視点もユニークで参考になりました。特に『古事記』の読み方に魅力を感じました。
- ・漁師の方々も自分の経験を積み重ねて “知恵、” としていることを理解した。
- ・川島先生の災害の60年周期説よくわかりました。新地町の魚の種類の変化も興味深かったです。
- ・両講師の解説が現場目線であったので、大変具体的で、わかりやすくて良かった。
- ・災害に関わる漁師さん達の経験則や神話と現実世界の関係など興味深いものでした。また、桑子先生のコロナの考察も納得でした。
- ・先生方から自分とは違う視点、考え方でご講演いただき、大変意義のある講座であったと思います。



菊地コーディネーター



川島講師 オンライン講演



桑子講師 オンライン講演



会場の様子